

## 平成 30 年度 新潟県教員等資質向上に関する連携協議会 意見概要

日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金）

13：30～15:00

会 場：議会第 3 会議室

### 1 教員等育成指標の活用状況について

#### (1) 大学（新潟大学・上越教育大学）

- 教職を希望する生徒を対象とした講義において、育成指標を配布するとともに育成指標に基づいて指導をしている。
- 教育学部及び教職大学院において、育成指標に関する FD(ファカルティ・ディベロプメント)を実施。
- 学校教員養成プログラムを検討する際に、育成指標に基づいた教育の実施や、卒業認定・学位授与に関する基本的な方針の策定を検討。
- 教職大学院のフォーラムにおいて、教育委員会と教職大学院との連携を目指し、育成指標をどう生かすかというサブテーマでシンポジウムを開催。
- 育成指標をもとに、大学のカリキュラムに生かしていこうと考えている。

#### (2) 県教育委員会

- 育成指標をもとに各研修の対象者の経験年数に応じて研修方法や実施内容を改善。
- 研修講座が教職員の資質向上と県の教育課題の解決にどの程度有効であったか、受講者に対してアンケートを実施。アンケート結果をもとに考察し、次年度の研修講座実施計画に反映。

#### (3) 学校現場

- 学校運営方針、グランドデザインの策定の参考としている。
- 教員評価自己申告シートの目標設定の参考としている。
- 育成指標ができたことで、一人ひとりがどのような方向に向かって育てばいいのか、成長すればいいのか、勉強すればいいのかなどがわかって、若手教員の助けとなっている。
- 教員評価自己申告シートの進捗面談において、教職員各自が自己の状況の振り返りをより具体的に行うようになった。
- 管理職として、進捗面談等において職員に対して適切な助言指導に役立っている。

### 2 今後の関係機関の連携、育成指標の在り方について

- 各学校において前年度の評価をもとに来年度の運営方針等を見直す際に、指標を見て、こういう視点も入れたほうがいいのか、補助的なものとして見るくらいがよい。
- 県の指標というのは、学校運営方針から一人ひとりの教員の役割まで学校の教育活動全体を見る一つの大事なものだと思う。
- 中堅教員が少ない中で、どうやって若手教員を育てるかが問題。育成指標が、OJT を行う先輩教諭が若手教諭を指導する際のよりどころとなってくる。
- 学校、教育委員会、大学に教員を育成しようという共通の指標があることによって、その指標をもとに協議を行ったり、授業づくりの観点を見ながら授業参観を行ったり、授業方法と生徒指導との有機的な関連を意識することができる。
- 指標に基づいて研修がしっかりと組まれていることが大事。

### 3 来年度以降の協議会について

- 指標の活用状況について関係機関で情報を共有し、連携を密にすることが重要。
- 協議会を継続して開催し、より良い指標の活用、より良い研修にしていくという観点で開催。